

正岡子規

夏目漱石

青空文庫

正岡の食意地の張った話か。ハ、ハ、ハ。そうだなあ。なんでも僕が松山に居た時分、子規は支那から帰って来て僕のところへ遣やつて来た。自分のうちへ行くのかと思つたら、自分のうちへも行かず親族のうちへも行かず、此ここ処こに居るのだという。僕が承知もしないうちに、当人一人で極きめて居る。御承知の通り僕は上野の裏座敷を借りて居たので、二階と下、合せて四間あつた。上野の人が頻しきりに止める。正岡さんは肺病だそうだから伝染するといけないおよしなさいと頻りにいう。僕も多少気味が悪かつた。けれども断わらんでもいいと、かまわずに置く。僕は二階に居る、大將は下に居る。其うち松山中の俳句を遣やる門下生が集まって来る。

僕が学校から帰って見ると、毎日のように多勢来て居る。僕は本を読む事もどうすることも出来ん。尤も当時もつとはあまり本を読む方でも無かったが、兎とに角かく自分の時間というものが無いのだから、止むを得ず俳句を作った。其から大将は昼になると蒲焼かばやきを取り寄せて、御承知の通りぴちやぴちやと音をさせて食う。それも相談も無く自分で勝手に命じて勝手に食う。まだ他の御馳走ごちそうも取寄せて食ったようであったが、僕は蒲焼の事を一番よく覚えて居る。それから東京へ帰る時分に、君払くつて呉れ玉えといつて澄まして帰って行つた。僕もこれには驚いた。其上まだ金を貸せという。何でも十円かそこら持つて行つたと覚えて居る。それから歸りに奈良へ寄つて其処そこから手紙をよこして、恩借きんすの金子は当地おいに於て

正に遣い果し候とか何とか書いていた。恐らく一晩で遣つてしまつたものであろう。

併し其前は始終僕の方が御馳走になつたものだ。其うち覺えている事を一つ二つ話そうか。正岡という男は一向学校へ出なかつた男だ。それからノートを借りて写すような手数をする男でも無かつた。そこで試験前になると僕に来て呉れという。僕が行つてノートを大略話してやる。彼奴の事だからええ加減に聞いて、ろくに分つていない癖に、よしよし分つたなどと言つて生呑込にしてしまう。其時分は常盤会寄宿舎に居たものだから、時刻になると食堂で飯を食う。或時又来て呉れという。僕が其時返辞をして、行つてもええけれど又鮭で飯を食わせるから厭だといつ

た。其時は大に御馳走ごちそうをした。鮭を止めて近処の西洋料理屋か何かへ連れて行つた。

或日突然手紙をよこし、大宮の公園の中の万松庵に居るからすぐ来いという。行つた。ところがなかなか綺麗きれいなうちで、大将奥座敷に陣取つて威張つている。そうして其処そこで鶉うずらか何かの焼いたのなどを食わせた。僕は其形勢を見て、正岡は金がある男と思つていた。処が実際はそうでは無かつた。身代を皆食いつぶしていたのだ。其後熊本に居る時分、東京へ出て来た時、神田川へ飄ひょう亭ていと三人で行つた事もあつた。これはまだ正岡の足の立つていた時分だ。

正岡の食意地の張つた話というのは、もうこれ位ほか思い出せ

ぬ。あの駒込追分奥井の邸内に居った時分は、一軒別棟べつむねの家を借りていたので、下宿から飯を取寄せて食っていた。あの時分は『月の都』という小説を書いていて、大に得意で見せる。其時分は冬だった。大将雪隠せつちんへ這入るのに火鉢ひばちを持って這入る。雪隠へ火鉢を持って行つたとて当る事が出来ないじゃないかというといや当り前にするるときん隠しが邪魔になつていかぬから、後ろ向きになつて前に火鉢を置いて当るのじゃという。それで其火鉢で牛肉をじゃあじゃあ煮て食うのだからたまらない。それから其『月の都』を露伴に見せたら、眉山びざん、漣さざなみの比で無いと露伴もいつたとか言つて、自分も非常にえらいもののようにいうものだから、其時分何も分らなかつた僕も、えらいもののように思つていた。

あの時分から正岡には何時いつもごまかされていた。発句も近来ようや漸く悟ったとかいつて、もう恐ろしい者は無いように言っていた。相変わらず僕は何も分らないのだから、小説同様えらいのだろうと思つていた。それから頻しきりに僕に発句を作れと強しいる。其家の向うに笹ささ藪やぶがある。あれを句にするのだ、ええかとか何とかいう。こちらは何ともいわぬに、向うで極きめている。まあ子分のように人を扱うのだなあ。

又正岡はそれより前漢詩を遣やっていた。それから一六風か何かの書体を書いていた。其頃僕も詩や漢文を遣やっていたので、大に彼のいつさん一いつさん 粲さんを博した。僕が彼に知られたのはこれが初めであつた。或時僕が房州に行った時の紀行文を漢文で書いて其中に下らない

詩などを入れて置いた、それを見せた事がある。処が大將頼みも
 しないのに跋ぼつを書いてよこした。何でも其中に、英書を読む者は
 漢籍が出来ず、漢籍の出来るものは英書は読めん、我兄の如きは
 千万人中の一人なりとか何とか書いて居った。処が其大將の漢文
 たるや甚はなはだまずいもので、新聞の論説の仮名を抜いた様なもので
 あつた。けれども詩になると彼は僕よりも沢たくさん山さん作さくつて居り平ひょう
そく灰はいも沢たくさん山さん知ちつて居る。僕のは整わんが、彼のは整つて居る。
 漢文は僕の方に自信があつたが、詩は彼の方が旨うまかつた。尤もつとも今
 から見たらまずい詩ではあるうが、先まず其時分の程度で纏まとつたも
 のを作つて居つたらしい。たしか内藤さんと一緒に始しじゆう終ゆうやつて
 居たかと聞いている。

彼は僕などより早熟で、いやに哲学などを振り廻すものだから、僕などは恐れを為なしていた。僕はそういう方に少しも発達せず、まるでわからん処へ持つて来て、彼はハルトマンの哲学書か何かを持ち込み、大分振り廻もつとしていた。尤も厚い独逸書ドイツしよで、外国にいる加藤恒忠氏に送つて貰つたもので、ろくに読めもせぬものを頻しきりにひつくりかえしていた。幼稚な正岡が其を振り廻すのに恐れを為なしていた程、こちらは愈々《いよいよ》幼稚なものであつた。

妙に氣位の高かつた男で、僕なども一緒に矢張り氣位の高い仲間であつた。ところが今から考えると、両方共それ程えらいものでも無かつた。といつて徒いたずらに吹き飛ばすわけでは無かつた。当

人は事実をいつているので、事実えらいと思つていたのだ。教員などは滅茶苦茶めちやくちやであつた。同級生なども滅茶苦茶であつた。

非常に好き嫌いのあつた人で、滅多めったに人と交際などはしなかつた。僕だけどういものか交際した。一つは僕の方がええ加減に合わして居つたので、それも苦痛なら止めたのだが、苦痛でもなかつたから、まあ出来ていた。こちらが無暗むやみに自分を立てようとしたら逆とても円滑な交際の出来る男ではなかつた。例えば発句などを作れという。それを頭からけなしちやいかない。けなしつつ作ればよいのだ。策略でするわけでも無いのだが、自然とそうなるのであつた。つまり僕の方が人が善よかつたのだな。今正岡が元気でいたら、余程よほど二人の関係は違ふと思う。尤もつとも其他、半分

は性質が似たところもあつたし、又半分は趣味の合つていた処もあつたろう。も一つは向うの我とこちらの我とが無茶苦茶に衝突もしなかつたのもあろう。忘れていたが、彼と僕と交際し始めたも一つの原因は、二人で寄席よせの話をした時、先生も大に寄席通を以て任じて居る。ところが僕も寄席の事を知つていたので、話すに足るとでも思つたのであろう。それから大おおに近おいよつて来た。

彼は僕には大抵とじな事は話したようだ。(其例一二省はぶく) 兎とに角かく正岡は僕と同じ歳としなんだが僕は正岡ほど熟さなかつた。或部分は万事が弟扱やいだつた。従つて僕の相手し得ない人の悪い事を平氣で遣やつていた。すれっからしであつた。(悪い意味でいうのでは無い。)

又彼には政治家的のアムビションがあつた。それで頻りに演説しきなどをもやった。敢て謹聴あえするに足る程の能弁でも無いのに、よくのさばり出て遣つた。つまらないから僕等聞いてもいないが、先生得意になつてやる。

何でも大将にならなけりや承知しない男であつた。二人で道を歩いていても、きつと自分の思う通りに僕をひっぱり廻したものだ。尤も僕がぐうたらであつて、こちらへ行こうと彼がいうと其通りにして居つた為であつたらう。

一時正岡が易えきを立ててやるといつて、これも頼みもしないのに占うらなつてくれた。豊一豊位の長さの巻紙に何か書いて来た。何でも僕は教育家になつて何うとかするといふ事が書いてあつて、外ほかに

女の事も何か書いてあった。これは冷かしであった。一体正岡は無暗むやみに手紙をよこした男で、それに対する分量は、こちらからも遣った。今は残っていないが、孰れいずも愚ぐなものであったに相違ない。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版 夏目漱石全集 10」筑摩書房

1972（昭和47）年1月10日第1刷発行

初出：「ホトトギス」

1908（明治41）年9月1日号

※本作品は、底本中では「談話」の項におさめられている。

入力：Nana ohbe

校正：米田進

2002年5月10日作成

2003年5月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

正岡子規

夏目漱石

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>